

研修名 保育内容研修3（運動遊び）

平成28年6月16日（木）13：30～16：00

演習 「関係性を育む運動あそび」

講師 はつとこども園 片山 喜章 氏



1 講演要旨

《ポイント》

- 1) すべての子どもが主役意識を持てるようなルール
- 2) あれこれ考えて、迷い戸惑い、葛藤を経験できるようなルール
- 3) 単純で繰り返すたびにコツを知り、関係性が深まるルール
- 4) 運動会の下ごしらえになる活動モデル

《遊びの中から》

- ・きらきらじゃんけん（じゃんけん列車）
常に主役意識が持てる様に従来の負けた人が後ろに繋がるルールではなく、負けたらキラキラ散って行き、新たな相手を探す。
- ・3グループで椅子取り
従来の排除型ではなく、触れ合い型にシフトさせる。隣に座ると立ちあがり移動する。
- ・6人くらいの小集団で競技種目的いろいろムーブメント
運動会の競技種目の共通練習法（短時間、小集団、繰り返し）
2人組で走り、椅子の背もたれにフープをかける。
- ・エンドレスリレー
トラックを椅子や積み木で作し、何人かのグループで一つのスタート地点から順番にトラックをひたすら走る。（順位はつかないが、走る中で自然にドラマが生まれる。）
- ・3人でフルーツバスケット
従来のフルーツバスケットをアレンジ。フープの中に足を入れ、3人それぞれが違うフルーツになる様にフープからフープへ移動する。

2 感想

今回の研修に参加して、保育者のねらいの中で遊びを展開させてしまうことや、ルールの理解にとらわれてしまう事で遊び本来の楽しさを感じられていないのではないかなど、遊びを振り返る機会になった。運動あそびのルールを優先させることで、子どもたちの迷いや戸惑いを出来るだけ避けられる様な配慮を心がけてしまうが、子ども同士でぶつかり、考え、葛藤する事で、遊びがより一層深まり、様々な過程を経て、達成感や楽しさを感じられる様になるのだと学んだ。遊び本来の楽しさを大切にしながら、一人一人が主役になれる様なルールのアレンジを心がけていきたい。

（記録 吉美こども園 藤原 麻美）